

動がせ、平塚。

コロナ禍でも着実な前進を

この2年、市政の中心は何と言っても新型コロナウイルス対策です。感染防止、医療体制の整備、ワクチン接種、感染者への支援、定額給付金の支給、社会経済対策の実施など、まずはこの危機を乗り切ることには総力を挙げるとともに、コロナ後を見据え、その先のまちづくりを進めるために重要な施策を着実に進めています。今回は、令和3年から4年にかけての取り組みを中心に紹介します。新型コロナウイルス対策は4面に掲載しています。

新しいまちの姿が見えてきた

平塚市の「北の核」となるツインシティ大神地区では幹線道路や公園の整備などが進んでいます。組合施行の土地区画整理事業は、今年度末

に総事業費の約87%を執行予定です。

立地企業のうち、物流施設は令和元年11月の三井不動産を皮切りに、2年12月に信濃運輸、昨年3月に日本GLP、5月に大和ハウス工業の一部が開業し、残りの部分の建築工事なども進んでいます。

商業施設のイオンモールは一昨年12月に土地の引渡し完了。この1月には起工式が行われ、来年春には開業の見込みです。

■新相模小は4月開校

新しい相模小学校は昨年12月に完成しました。木材を多く使った、開放的で日当たりのよい二階建てです。太陽光発電やLED照明の設置による省エネルギー化、断熱材や、ひさし（バルコニー）の設置による外部の熱負荷の軽減など、環境への配慮が随所にみられます。



新しい相模小学校で

■文化芸術ホールは3月オープン

見附台体育館跡地に建設中の文化芸術ホールは、3月26日に開館します。旧東海道にあるバス停の名前も変わります。周辺整備に合わせ、歩道橋は昨年9月に撤去され、高麗山の眺望もよくなりました。

■駅バリアフリー化

長年の懸案だった平塚駅北口のバリアフリー化を進めるため、下りエスカレーター新設とエレベーター改修などを昨年から進めています。下りエスカレーターは北口階段に整備し、今年秋に完成予定です。

エレベーターは駅ビル・ラスカ平塚の既存の西側エレベーターを活用して、改札階（3階）と地上階を結ぶ経路を新たに整備し、この1月に完成予定です。

このエレベーターと、ラスカ南館のエレベーターは4月から、始発から終電まで動くようになります。

「さらさら」に選ばれ、住み続けるまちへ

市制90周年に



七夕まつりや花火大会は、感染対策を徹底したうえで記念事業として開催する計画です。

インクルーシブ遊具

インクルーシブ遊具とは体に障がいがある子ども、ない子ども一緒に遊べる遊具のこと。市制施行90周年を記念して今年12月、総合公園に完成予定です。

障がい福祉関係団体や特別支援学校などと話し合い、車いすの子ども遊べる複合遊具やテーパー型の砂場、視覚障がいの子も遊べる音が鳴る遊具などを設置するほか、遊具周辺はゴムチップで舗装します。付き添いの方が休めるベンチも設けます。

総合公園の大型複合遊具や屋外トイレの改修は、昨年完了しています。

カピバラ春公開へ

令和2年1月、総合公園ふれあい動物園に引き取られたカピバラの公開準備を進めています。

このカピバラは令和元年6月、藤沢市の飼い主宅から逃げ出し、同年12月、大磯町で捕獲されました。警戒心が強く、人になつかないため公開を見合わせていましたが、ようやく

く飼育員に慣れてきたため、総合公園にいただいた寄付金を活用して公開スペースを整備しています。

早ければこの春にも、公開できる見込みです。

オリパラが終了

リトアニア共和国パラリンピック委員会の事前キャンプは中止となりましたが、オリンピック選手・役員65人は平塚市内の各施設で事前キャンプを実施。オリンピックでは銀メダル1つ、パラリンピックでは銅メダル3つを獲得しました。

大会後、市民ボランティアに同国大使から感謝状が贈られました。

ラスカに投票所

昨年の衆議院議員総選挙から、期日前投票所を新たに駅ビル・ラスカ平塚に設けました。

投票率の低下を食い止めるために期日前投票所を増やして、投票の機会を増やそうと進めてきました。急な解散で開設日は3日間に限られましたが、それでも7912人が訪れ、最終日は市内5会場（市役所、金目・金田・神田公民館、ラスカ）のうち1日の投票者数が最多となりました。

消防本署が完成

耐震性を備えた庁舎として、市役所の隣で建て替えを進めていた消防署本署が完成、昨年7月に業務を開始しました。消防団第3分団（駅前分団）との合築です。

感染防止対策を徹底しながら施設見学会も開いています。

大雨で全国初、警戒レベル5を発令

昨年7月3日、梅雨前線の影響による大雨で、熱海市では大規模な土砂災害が発生しました。平塚市では3日朝7時前、金目川水系の各河川で氾濫の発生が切迫した状況にあったことから、災害対策本部を設置。昨年5月の災害対策基本法の一部改正後、全国初となる「警戒レベル5緊急安全確保」を発令しました。市内では、住居の浸水被害や河川の護岸が崩れる被害などが発生しましたが、人的被害はありませんでした。

この経験を踏まえ、金目川などを管理する神奈川県に対して、河川整備の促進や河床の土砂浚渫などを、改めて強く要望しました。

子育て支援を拡充

中学校給食は 令和6年度に

学校給食センターは、昨年12月に事業者が決定し、今年は令和6年度のスタートに向けて、田村の消防訓練場跡地で造成工事が始まります。完成後は最新鋭の設備で平塚の食材を使った温かい「完全給食」を届けます。このセンターでは中学校給食のほか現在、東部・北部調理場で作られている小学校給食も作ります。

一方、各中学校では、給食受け入れのための施設整備を進めています。

トイレの洋式化

学校トイレの洋式化は、私の1期目の公約でした。就任時の27・46%が今年度末50・46%になります。

これまで校舎の大規模改修(今年度約4億7500万円)に合わせて進めてきましたが、トイレ改修に特化した予算(同約3億1700万円)も計上して加速させています。

待機児童ゼロ達成

昨年4月、5年ぶりに保育所の待機児童ゼロを達成しました。これま

で、民間保育所の施設整備や0〜2歳児に特化した小規模保育事業の新規開設(4月で5園)、保育士確保の取り組み(①市内転入と就職で100万円の貸付金、②新規就職で36万円の交付金、③奨学金の返済支援)を実施。加えて1歳児は国基準(児童6・保育士1)より市独自に保育士を手厚く配置(児童4・保育士1)するなど「受け皿確保」と「質の確保」の両面から取り組んでいます。

定員は、民間保育所などの協力を得て、私の市長就任から10年で781人増えました(2011年3260人→2021年4041人)。

新たな動きとして、この4月に市内の東海大学に児童教育学部(定員150人)が新設されます。保育実習や行事ボランティアなど、平塚市と連携していただく計画です。

病児保育が始まる

昨年4月に平塚市初となる病児保育事業が始まりました。

社会福祉法人が進めた診療所と病児保育施設の複合施設整備を支援しました。これまでの病「後」児保育に加えて、子育て支援のさらなる拡充を進めていきます。

ごみ戸別収集を

可燃ごみの戸別収集を夕陽が丘、立野町、大神のそれぞれ一部地域で社会実験しました。ごみ減量や分別徹底に加え、高齢者世帯や子育て世帯など、ごみステーションへの排出が難しい世帯の増加などに対応する

ことを目的としています。

この成果を踏まえ、昨年から順次対象地区を広げています。将来は市内全域での実施をめざしています。

並行して、不燃ごみや剪定枝、ペトボトル・プラクルの一部などで進めてきた収集の民間委託を、4月から可燃ごみの一部にも広げます。

全国に先駆けスマート農業

スマート農業とは、AI(人工知能)やロボットなどの先端技術を活用した新たな農業を表す言葉です。

これまで人手に頼っていた作業や熟練者の技術を、最先端の機器が担

うことで農作業を効率化し、農業者の負担を減らします。平塚市は全国に先駆けてスマート農業の導入に対する支援を開始し、令和2年度には補助制度を創設。今年度までに総額2億3000万円以上の事業を支えてきました。その結果、GPS(衛星測位)を搭載したリモコンで操作できる自動田植機(上写真)やトラクター、農作業アシストスーツ、農業用ドローンなどの導入が進みました。

農業従事者数はこの20年間でほぼ半減し、技術の継承や耕作放棄地の増加が課題になっています。このスマート農業を導入することで農作業の効率化や、作業工程のデータ管理が進み、そうした多くの課題が解決されていくと期待しています。

スマート農業をきっかけに就農先としても選ばれるまちとなり、担い手不足の解消にもつなげていきたいと考えています。



コロナに打ち勝つまちに

平塚市は「コロナに打ち勝つまち」をめざし市政運営を進めています。令和2年2月、クルーズ船からの患者を市民病院で受け入れ、3月には深刻なマスク不足に伴い、子育て支援施設などにいち早く災害用備蓄マスクを配布。市民の「いのち」と「くらし」、平塚の「まち」を守るため、感染防止対策や社会経済対策、コロナ後を見据えた対策などに取り組んでいます。

これまで実施した「緊急対策」「総合対策」は計6回、事業規模は総額約85億円に及びます。財源は国の臨時交付金や、落合市政になってから約24億円積み増して約77億円とした財政調整基金(市の貯金)を約10億円取り崩すなどして確保しました。

油断は禁物です

神奈川県に出されていた緊急事態宣言が、昨年9月末に解除されました。全国的に感染は落ち着いた状況が続く、新規感染者数は平塚市でも8月1か月間の1090人をピークに、9月468人、10月12人と激減し、11月はゼロとなっています。

市民・事業者の皆様による感染防止対策の徹底、医療・介護に従事される皆様の献身的なご尽力によるも

のと、心から感謝申し上げます。

平塚市では11月26日以降、施設ごとに必要な準備を整えたうえで、これまでお願いしてきた利用人数などの制限を、順次解除しています。

さまざまな制限が緩和され、まちににぎわいが戻ることは喜ばしいことです。油断は禁物です。世界に目を向けると、ワクチン接種が進んでいても、ここに来て過去最多の感染者数を記録する国も出ています。新たに報告されたオミクロン株が、多くの国でも確認されるなどのリスクも生じています。

冬は気温が低くなり、空気が乾燥して新型コロナウイルスに感染するリスクが高まります。皆様も現在の状況に気を緩めることなく、マスク着用、手洗い、「密」の回避、換気など、基本的な感染防止対策の徹底をお願いします。

3回目の接種を

平塚市でワクチンを2回接種した方は対象者の85%を超えています。

3回目接種は、2回目接種を終えた日から原則8か月以上経過した方を対象に始める予定です。ただし、医療従事者などへの接種は2か月前倒しされ、昨年12月から始まってい

ます。また、高齢者への接種は1か月前倒しされる予定です。

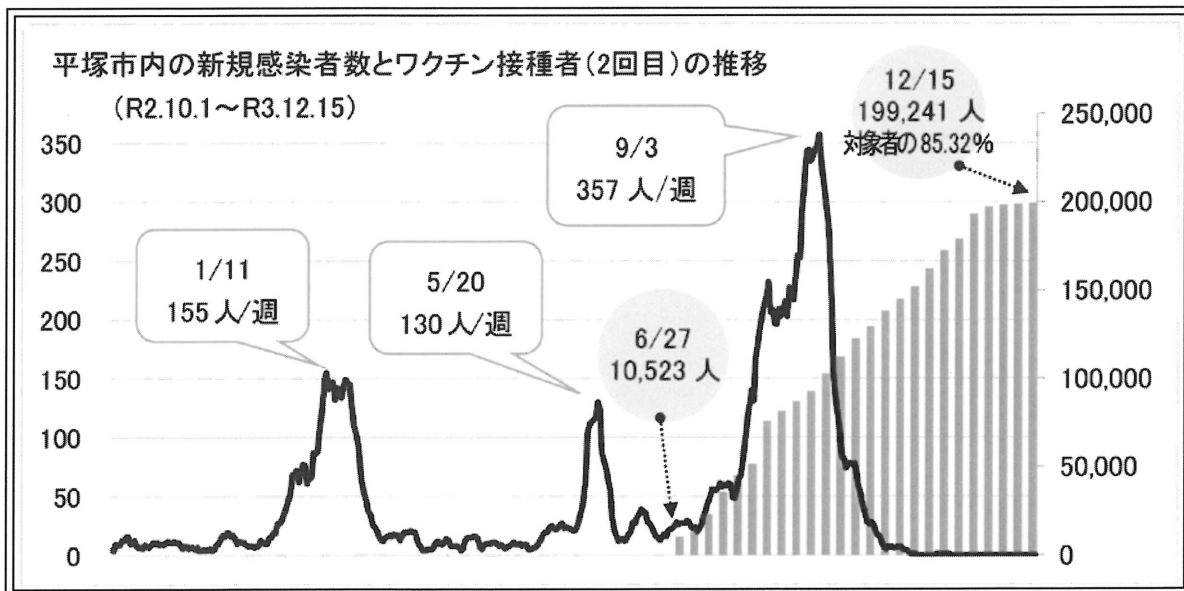
一般の方へは、1月上旬から接種券を順次送り、接種は2月初旬から約100か所の個別医療機関および集団会場が始める予定です。集団会場は、駅周辺が平塚ブレジール、神奈中グランドホテル、ラスカ平塚。公民館が神田、金目、旭南。そのほか保健センター、市役所となる予定です。高齢者などへの予約サポートは、1月中旬から市役所で始まります。

日程や予約方法などは決まり次第、広報ひらつかなどに掲載されます。

12歳になった方などは

新たに12歳になった方には接種券を順次お送りしています。また、まだ1回も接種していない方にも接種の機会を設けています。いずれも、コールセンターへお問い合わせください。

5歳から11歳の方への接種などについては決まり次第、広報ひらつかなどに掲載されます。



新型コロナウイルスワクチン接種
コールセンター
☎0570-098-894
(午前8時30分~午後5時)